



岐阜大学国際交流

NEWS Letter

For International Exchange
Gifu University

March 2025

58

岐阜ジョイント・ディグリーシンポジウム2024を開催

12月6日

2024年12月6日（金）、「岐阜ジョイント・ディグリーシンポジウム2024」を開催しました。

東海国立大学機構主催のメインシンポジウムには、対面及びオンラインで119名が参加しました。冒頭、松尾 清一 機構長と吉田 和弘 大学総括理事・副機構長（岐阜大学長）が開会挨拶を行い、続いて文部科学省 高等教育局の武田 久仁子 専門官が「留学生Mobilityの推進及び大学の国際化について」と題した基調講演を行いました。その後のパネルディスカッションでは、名古屋大学、立命館大学、京都工芸繊維大学及び岐阜大学の代表者が登壇し、ジョイント・ディグリープログラム（JDP）^{（注）} 修了生がもたらす学内への波及効果や今後の展望について議論が交わされました。また、大学や国としての学生支援のあり方についても活発な意見交換が行われました。

午後からの岐阜大学主催による産官学金連携セッションには95名が参加し、「グローバル化による地球課題解決への挑戦」をテーマに、JDPに協力した企業への感謝状贈呈が行われました。続くパネルディスカッションでは、竹資源の活用に関する具体的な取組が紹介され、今後の展開について有意義な議論が展開されました。

工学部では企業のブース展示も開催され、産学連携の具体的な取組や成果が紹介されるなど、終日にわたり充実したプログラムとなりました。

本シンポジウムを通じて、教育研究の国際化と地方創生におけるJDPの重要性が再確認されました。

今後も同シンポジウム開催等の活動を通じ、JDPを中軸とした地域の国際化推進に貢献していきます。

（注）ジョイント・ディグリープログラム（JDP）

連携する大学間で開設された単一の共同の教育プログラムを学生が修了した際に、当該連携する複数の大学が共同で単一の学位を授与するもの。



シビ・ジョージ駐日インド共和国大使が本学を訪問

12月20日



2024年12月20日（金）、シビ・ジョージ駐日インド共和国大使が岐阜大学を訪問し、吉田 和弘 学長、小山 博之 グローカル推進機構長、三輪 真一 特任教授、野々村 晴子 学務部長と、岐阜大学とインドとの交流、国際的な教育・研究活動のさらなる推進や留学生や研究者の受け入れ・派遣の拡大等について意見交換を行いました。学長訪問後、ジョージ大使は本学のインド人学生・教職員及び卒業生の計18名との交流会に出席しました。この交流会では、インドと日本の教育や研究に関する意見交換が行われ、学生や卒業生にとって貴重な機会となりました。

岐阜大学では、インド工科大学グワハティ校との日本唯一のジョイント・ディグリープログラム（JDP）を通じて、これまでに21名の修了生を輩出してきました。このプログラムを軸に、短期留学プログラムなど多様な教育機会を提供しており、毎年インド人学生が本学で学び、研究を行っています。本学の取組は日印両国の友好関係や産業振興、研究活動において着実な成果を上げております。

また、本学は、2025年3月にはインド・グワハティでJDPシンポジウムを開催する予定であり、日印両国の教育機関や地域間の連携を一層強化していく計画です。

今回のジョージ大使の訪問を通じ、岐阜大学はインドの大学等との交流と連携をさらに深化させ、教育・研究分野において新たな発展を目指していきます。





2024年12月2日(月)、吉田 学長が名古屋 米国領事館のアンナ・ワン首席領事の表敬訪問を受けました。懇談の場では、岐阜大学と米国とのこれまでの学術・文化交流の歴史や今後の展望について、活発な意見交換が行われました。

本学は、サンディエゴ州立大学、ノーザンケンタッキー大学及び南フロリダ大学をはじめとするアメリカの大学と大学間及び部局間で学術交流協定を締結しており、教育や研究を通じて長年にわたり密接な関係を築いてきました。今年1月には南フロリダ大学シミュレーションセンターとの研究者交流協定を締結し、医学分野での共同研究や人的交流の発展が期待されています。また、ノーザンケンタッキー大学とは教育学部の学生実習を通じた交流が続いており、昨年は同大学の国際教育センター事務局長が本学を訪問しました。

表敬訪問の後、ワン首席領事と本学の海外留学や渡航経験のある学生7名の交流会を行い、学生たちが海外で経験したことに関する疑問や、留学を通じて得た学びが現在の学生生活や将来設計にどのように影響しているかなど、多岐にわたる話題について意見交換が行われ、学生たちにとってはグローバルな視点を広げるとともに、国際的な経験を持つリーダーとの直接対話することのできる貴重な機会となった様子でした。

本学は、米国との協力関係をさらに深め、多様な分野での交流を今後も推進してまいります。



アンダラス大学 学長らが本学を訪問

10月18日



2024年10月18日(金)、本学と大学間学術交流協定を締結しているインドネシアのアンダラス大学(Unand)のエファ・ヨネディ学長、本学の修生(工学研究科)であるシュクリ・アリフ 教育・学生支援担当 副学長及びエリザル・ムチタル 生物学プログラム専攻長が本学を訪問しました。本学とUnandは、1990年代より工学部(主に化学系)との交流から始まり、2001年4月に大学間学術交流協定を締結し、現在では連合農学研究科とデュアルPh.D.ディグリープログラムを実施するほか、連合農学研究科が開催する国際会議(UGSAS-GU Symposium & Roundtable)等を中心に研究交流を行っています。

学長表敬訪問では、はじめにUnand新学長のご挨拶がありました。さらに同大学との20年以上の交流の歴史について言及があり、農学・工学分野以外でも交流を進めていくこと等、今後の展望について活発な意見交換が行われました。

本学は今後もUnandとの連携をより一層深め、今後の教育・研究交流を推進していきます。



海外への留学

海外留学フェア2024秋

11月20日

2024年11月20日(水)、グローバル推進機構主催『海外留学フェア2024秋 ～広げよう、留学の輪～』を開催しました。本フェアは、留学に必要とされる語学力や、岐阜大学における留学プログラムに関する情報提供および留学の促進を目的として、平成24年度から開催しています。

本フェアは、嶋 睦宏 グローバル推進機構 留学推進部門長の挨拶から始まりました。

初めに、留学支援係から本学の留学プログラムや支援制度に関する説明があり、続いて、昨年度及び今年度の短期英語研修プログラムにより留学した学生から、留学経験に基づく発表を行いました。約10分間の休憩後は、交換留学及び学部等の短期派遣プログラムにより留学した学生が発表を行いました。プログラムを経て、留学前より英語を使うことに自信を持つことが出来るようになったこと、語学を学ぶ意欲が更に向上したこと、多様な価値観への気付きがあったこと等、留学を通じて成長した姿が伺えました。

また、参加者は、各担当者の説明や留学経験者の体験談に熱心に聞き入り、フェア終了後には個別質問をする等、留学への関心の高さが感じられました。



海外で学ぶ



教育学研究科
川口 優磨

シドニー工科大学



オーストラリア

英語漬けの日々

私は交換留学生として約10か月オーストラリアのシドニー工科大学(UTS)にて学びを深めました。授業では、カジュアルな場面からアカデミックな場面まで、多様な英語を学ぶことができました。オーストラリア自体が移民の多い国ですが、シドニーは特にアジア人が多く、彼らの国の特色があらわれた多様な英語にも触れ、自分のなまりのある英語も許容されるのだと気が楽になり自信につながったことを覚えています。はじめは本当にこの留学で英語力が上がるのか不安でしたが、今では伸びたと断言でき、自分にとって本当に価値ある経験であったと思います。



本プログラムでは、2024年7月から約4箇月間にわたり、本学(7名)、インド工科大学グワハティ校(IITG・4名)及びマレーシア国民大学(UKM・5名)の学生が4グループに分かれ動画の共同制作を行いました。各グループは、オーストラリアのcreative agencyプロデューサーからスマートフォンでの動画撮影技術の指導を受けながら、「SDGsを考える」をテーマに動画作品を作成しました。

2024年12月12日(木)には、学生が制作した動画の発表の場としてFinal Competitionがハイブリッド開催にて行われ、本プログラムの関係者及び視聴者合わせて37名が参加しました。特別審査員として、リム副学長、小山グローバル推進機構長、アイシャ准教授(UKM教員)、ドキュメンタリー映画製作者兼ポッドキャストプロデューサーである竹村様及び株式会社プラスファクトリー代表 前様が参加し、動画作品の講評を行いました。

Final Competitionの最後には、特別審査員による採点及び視聴者投票が行われ、グループ1の作品「Beat the Heat」が最優秀作品に決定しました。

本プログラムで制作された動画はGU-GLOCAL Channelから視聴できます。

(<https://www.youtube.com/playlist?list=PLrNWL5oYxiK9aHppLz9nEMIRcTuARBk3c>)

これらの動画作品が、各大学の学生の海外への興味や関心のきっかけになることが期待されます。



本学への留学

Winter School Program2024

12月5日～20日

グローバル推進機構では、短期受入プログラムのウィンタースクールを2024年12月5日(木)～20日(金)にかけて、開催しました。第8回目となる本年は、本学とジョイント・ディグリープログラム(JDP)を設置しているインド工科大学グワハティ校から6名、マレーシア国民大学から2名の学生が来学しました。

本年度は「日本の食品を科学する」というテーマにて開催し、2週間という短い期間に、参加学生らは企業や日本学生との交流、研究活動、日本文化体験等のプログラムを行いました。

企業との交流は、岐阜ジョイント・ディグリーシンポジウムへの参加、企業理解の特別講義や企業訪問を行いました。日本学生との交流は、岐阜大学の学生や岐阜市内の高校生との交流会を実施しました。研究活動については、麴を分析する実験や日本の食文化に関する実験を行いました。そして、日本文化の体験としては、日本語授業受講や十二単のイベントへの参加、八百津町を訪問し醸造見学や茶園体験をしました。※本事業は大学の世界展開力強化事業の支援を受け実施しています。



日本語・日本文化教育センター(日文センター)の取組み

十二単の着装と体験

12月11日

2024年12月11日(水)、日文センター和室において、日本文化ワークショップ「十二単の着装と体験ー日本の民族衣装ー」を開催しました。

当日は、ウィンタースクール参加学生をはじめ、日文センター所属の日本語・日本文化研修コースの留学生(以下日研生)や社会文化プログラムの留学生等、本学に在籍する留学生や日本人学生及び教職員など、50名以上が参加しました。

本ワークショップでは、和服の着付けを専門に指導されている伊藤慶子(豊装慶)氏をはじめとした5名の講師陣によって指導が行われました。箏の生演奏も披露され、荘厳で優美な雰囲気の中、参加者たちに十二単の魅力が伝えられました。また、日文センターの土谷教授からは、日本語・英語の両言語で日本の歴史や十二単の基礎知識の説明がありその後、着付けモデル希望者の中から選ばれたベトナム出身の日研生チャン・ティ・キム・トアさんが、小袖と長袴を身にまとい、化粧の下準備をして会場に入室しました。

講師は、作法に従い「御方様」であるチャンさんに敬意を表しながら、単、五衣、表着、唐衣、裳の順に着付けをしました。参加者からは「十二単は毎日着ていたのか」「どのように保管していたのか」「トイレはどうしたのか」等の多くの質問が次々と寄せられ、講師から丁寧な説明がありました。

参加者からは、日本の伝統文化の奥深さや美しさを堪能することができたとの感想が寄せられるなど、日本文化教育の充実につながる有意義な機会となりました。



岐阜大学で学ぶ

研究と冒険を楽しむ:私の日本旅

フランスのブザンソンとマルセイユにおいて修士課程で学ぶという素晴らしい旅を終え、岐阜大学の博士課程で学ぶ幸運に恵まれました。ケニアの小さな町、ニエリから来



ケニア

た私にとって、この経験は私の人生の中でもエキサイティングな章の始まりです。私にとって現在最大の課題の一つは言語を習得することで、無数の漢字を解読するのは困難でありながらもとても刺激的です。日本滞在中、焼き肉屋さんで焼肉を楽しんだことから、手力の火祭り、長良川の花火大会、雪に覆われた白川郷を満喫したことまで全て忘れられない思い出です。論文準備をしながら、今も私の冒険は続きます!



工学研究科
メジャー・
フレーション・
イルング

2024年10月30日(水)、2024年度愛岐留学生就職支援コンソーシアム岐阜地区ワークショップを開催しました。

今年度で7回目となる本ワークショップは、愛岐留学生就職支援コンソーシアムに参画している本学、岐阜県、岐阜県経営者協会及び日本貿易振興機構(JETRO)岐阜貿易情報センターの県内4機関が共同で開催し、留学生と県内企業に就職マッチング機会を提供することを目的としています。

ワークショップは2部構成で、第1部では「東海圏における高度外国人材の活用に向けて：定着促進の視点から」と題し、事業主と外国人労働者それぞれの立場から講演がありました。はじめに、株式会社キョウワの代表取締役社長 臼田 龍司氏が、自社でベトナム人を雇用するに至った経緯や雇用したベトナム人社員の定着を目指す現在の取組について、具体的なエピソードを交えながら紹介しました。次に、株式会社テクノブレインドヒダで活躍しているクナラッタナ スワピス氏から、自身が外国人として日本で就職活動をした体験談や現在従事している仕事について日本語で語り、参加者にとって大きな刺激となりました。

第2部では、留学生が参加企業のブースを訪ねて企業担当者と直接交流を行いました。今年度は企業11社から13名の企業担当者と、留学生(6箇カ国)14名が参加しました。

参加した留学生からは「留学生に特化したワークショップで大変良かった、外国人として日本に就職するための情報が得られた、住む場所、働く場所として東海地区の魅力を実感した」と好評を得ました。企業担当者からは「採用までの実際の取組事例を聞き、自社にも取り入れたいと思った」「実際に日本で就職した人の話を聞くことは非常に有意義だった」「今後自社が外国人を採用するにあたって情報共有できる方や機関とつながりができ良かった」と次へとつながるコメントも寄せられました。

本学では今後も、留学生と県内企業のマッチングを積極的に支援し、留学生が日本での就職を実現できるようサポートしていきます。



リトアニア共和国との交流



駐日リトアニア大使特別講演会を開催

10月29日

2024年10月29日(火)、駐日リトアニア共和国 特命全権大使 オーレリウス・ジーカス大使による特別講演会を開催しました。

本講演会は岐阜県主催の事業「リトアニアNOW2024」の一環として開催しました。冒頭の吉田 学長による開会挨拶では、本学とリトアニアのこれまでの交流状況として、学術交流協定大学であるヴィータウタス・マグナス大学及びカウナス工科大学との研究・学生交流や2019年度にギターナス・ナウセーダ大統領による特別講演会を本学で開催したことなどを紹介しました。

講演では、同国の地理的特徴、文化、歴史、現在のリトアニア社会やウクライナ支援などの現状について、丁寧な日本語で分かりやすく語り、学内外から参加した約200名の参加者が興味深く聞き入りました。また、参加者からは、リトアニアの高い食糧自給率や防衛・エネルギー政策、大手チェーンレストランと共同企画開発したリトアニア家庭料理についての質問が挙がるなど、同国への高い関心が伺えました。

本学は今後も、多様な国の文化に触れる機会を提供し、学生・教職員・地域の方々が国際理解を深められるような活動を推進してまいります。



カウナス工科大学学生との交流会を開催

10月17日

2024年10月17日(木)、リトアニアのカウナス工科大学学生らによるフォークダンスグループ「ネムナス」との学生交流会を開催しました。当日は、ネムナスメンバーのほか、本学学生や教職員なども含む約80名が参加しました。

イベントでは、まず吉田 学長による開会挨拶、集合写真撮影の後、岐阜大学イングリッシュクラブによる岐阜大学と岐阜県の歴史・文化について英語の紹介がありました。その後、ネムナスのメンバーによるカウナス工科大学の紹介、ダンスと歌の披露があり、多くの参加者も一緒に伝統的な歌と踊りの輪に加わりました。

本学とカウナス工科大学は、2010年に大学間交流協定を締結して以来、学生・研究者交流を行っています。

今回のイベントを機に、さらなる学生交流の促進が期待されます。



先輩からのメッセージ

研究者として実社会で働く元留学生の生活とは

2019年9月に岐阜大学博士課程を修了後、2年間ポスドク研究員として働き、その後の2年間は特任助教として勤務しました。その後、富山の十全化学株式会社のオリゴヌクレオチド(注)チームに研究者として加わりました。私の現在の職務は、オリゴヌクレオチドの合成を行うこと、新しい分子やプロセス開発のための戦略を練ることです。研究活動に加えて、海外事業開発のために外国企業へのプレゼンテーションも行っています。岐阜大学時代の研究室活動と留学生サークルが研究者として成長し、言語能力を伸ばすのに大いに役立ったと信じています。

(注) 短い鎖状のDNAまたはRNA分子。遺伝子研究や医療分野で広く使用され、特定の遺伝子の検出や治療に使われる。



十全科学株式会社 アカシ・チャンデラ
連合農学研究科生物資源科学専攻 2019年修了
(IIT修士課程出身 2016年修了)

